

綾部市立志賀小学校いじめ防止基本方針

はじめに

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせるおそれがある重大かつ深刻な人権問題である。

また、いじめは、どの子にも、どの学校でも起こりうることを踏まえ、より根本的ないじめ問題の克服のためには、全ての児童を対象としたいじめ未然防止及び早期発見の観点が重要である。

そのためには、大人自身のふるまいが子どもに影響を与えることを認識し、全ての児童をいじめの加害者にも傍観者にもさせることなく、心の通う対人関係を構築できる社会性のある大人へとはぐくむとともに、児童に関わる全ての者が、児童のささいな兆候に対しても、いじめではないかとの疑いを持ち、積極的に関与することが大切である。

綾部市立志賀小学校では、児童一人ひとりの尊厳と人権が尊重される学校づくりを推進することを目的に、綾部市・家庭その他の関係者の連携の下、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第13条の規定に基づき、いじめの防止、いじめの早期発見及びいじめへの対処（以下「いじめの防止等」という。）のための対策を総合的かつ効果的に推進するため、綾部市立志賀小学校いじめ防止基本方針（以下「学校基本方針」という。）を策定する。

第1 いじめの防止等の組織

- 1 いじめの防止等に関する取組を実効的に行うため、校内に「いじめ対策委員会」を置く。
- 2 「いじめ対策委員会」の構成員は次のとおりとし、必要に応じて関係する教職員やスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を加える。
校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、養護教諭、該当学年担任
- 3 隔週月曜日に「生徒指導交流会」と「いじめ対策委員会」を開催する。なお、緊急に必要なときはこの限りではない。
- 4 「いじめ対策委員会」では、次のことを行う。
 - (1) 学校基本方針に基づく取組の実施、具体的な行動計画の作成、実行、検証、修正
 - (2) いじめの相談・通報の窓口
 - (3) 関係機関、専門機関との連携
 - (4) いじめの疑いや児童の問題行動などに係る情報の収集と記録、共有
 - (5) いじめの疑いに係る情報に対して、関係する児童への事実関係の聴取、指導や支援の体制及び保護者との連携等対応方針の決定
 - (6) 重大事態が疑われる事案が発生したときに、その原因がいじめにあるかの協議

- (7) 重大事態に係る事実関係を明確にするための調査
- (8) 当該重大事態を踏まえた同種の事態の発生防止のための取組の推進

第2 いじめの未然防止

1 基本的な考え方

いじめは、どの子どもにも起こりうるものであるとともに、どの子どもも加害者にも被害者にもなりうるものである。このことを踏まえて、全ての児童を対象に互いの個性や価値観の違いを認め、自己を尊重し、他者を尊重するなど豊かな感性を育むとともに、いじめを許さない集団づくりのために、全教職員がP T A等関係者と一体となって継続的に取組を行う。

2 いじめの未然防止のための取組

- (1) 分かりやすく規律ある授業の推進
 - ・綾部市「あい」のある学習の推進
 - ・言語活動の充実
 - ・授業研究会の充実（各月）
 - ・ベル着の徹底
 - ・教室環境の整備
- (2) 自己有用感をはぐくむ取組の推進
 - ・一人一人を大切にした学級づくりの推進
 - ・児童会活動の充実（なかよし班の取組、ペア学年の取組）
- (3) 豊かな心をはぐくむ取組の充実
 - ・道徳教育、人権教育の充実（いじめ問題を自分のこととして捉え、考え・議論する）
 - ・体験活動、読書活動の充実
 - ・規範意識、コミュニケーション能力の向上
- (4) いじめについて理解を深める取組の推進
 - ・人権学習、人権週間の取組（年3回、12月）
 - ・児童会活動と連動した取組
 - ・非行防止教室の実施
- (5) 教職員の資質能力の向上を図る取組の推進
 - ・校内研修の実施（年2回、人権教育、人権学習教材研究 等）
- (6) P T A等との連携
 - ・学級懇談会・地域懇談会の実施
 - ・人権講演会（親子）の実施

第3 いじめの早期発見

1 基本的な考え方

いじめはけんかやふざけ合いであっても、見えない所で被害が発生している場合があったり、遊びやふざけ合いを装い、教職員のわかりにくい場所や時間に行われたりするなど、教職員が気づきにくく判断しにくい形で行われることを認識することが必要である。

このことから、児童が示す変化や危険信号を見逃さないように、日ごろからの児童の見守りや信頼関係の構築等に努める。

2 いじめの早期発見のための取組

(1) 情報の集約と共有

- ・いじめに関する情報については、些細なことも含め「いじめ対策委員会」で情報を共有する。
- ・「いじめ対策委員会」で共有された情報については、全教職員で共有する。
- ・緊急の場合は、職員会議等で情報を共有する。

(2) 学期毎に全児童を対象とした質問紙調査及び個人懇談を実施

- ・質問紙調査 いじめアンケート：6月、11月 ・追跡調査：11月、3月
- ・個人面談（担任による聴き取り）：6月、11月、3月

(3) 相談体制の整備と周知

- ・スクールカウンセラーと情報を共有する。
- ・校内相談窓口を設置し、児童及び保護者に周知する。

第4 いじめに対する取組

1 基本的な考え方

学校の教職員がいじめを発見し、または相談を受けた場合には、情報を抱え込むことなく、些細なことでも速やかに「いじめ対策委員会」に情報を報告し組織的な対応にあたる。その際には、被害児童を守り通すとともに、加害児童に対しては教育的配慮の下、毅然とした態度で指導する。これらの対応については、教職員全体の共通理解、保護者の協力、関係機関・専門機関と連携に努める。

2 いじめの発見・通報を受けたときの対応

- (1) いじめと疑われる行為を発見した場合、その場でその行為を止めさせる。
- (2) いじめと疑わしき行為を発見した、あるいは相談や訴えがあった場合には、速やかに「いじめ対策委員会」で情報を共有する。
- (3) 「いじめ対策委員会」を中心に関係児童から事情を聞くなどいじめの有無の確認を行う。結果は、加害・被害児童及びそれぞれの保護者に連絡するとともに、綾部市教育委員会に報告する。
- (4) いじめられた児童、その保護者への支援を行う。

- (5) いじめた児童への指導を行うとともに、保護者に、よりよい成長へ向けて学校の取組方針を伝え、協力を求める。
- (6) 児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるおそれがあるときは、直ちに警察等との連携を図る。
- (7) いじめが起きた集団に対しても自分の問題として捉えさせ、集団の一員として、互いを尊重し、認め合う人間関係を構築できるような集団づくりを進めていく。

3 インターネット上のいじめへの対応

- (1) インターネット上のいじめを誘発する通信情報システムについての研修を実施する。
- (2) インターネット上の不適切な書き込み等については、直ちに削除する措置をとる。
- (3) インターネット上のいじめを防止し、効果的に対処できるよう、スマートフォン等へのフィルタリング普及促進や情報モラル教育、家庭での使用上の約束等、児童への指導及び保護者に対する啓発活動を進める。

第5 重大事態への対応

- 1 重大事態が発生した場合は、直ちに綾部市教育委員会に報告し、調査を実施する主体等を協議する。学校が調査を行う場合は、「いじめの防止等のための基本的な方針」（文部科学大臣決定）、京都府及び綾部市におけるいじめ防止等のための基本的な方針に基づき、「いじめ対策委員会」を中心に、被害児童・保護者の思いを踏まえるとともに、調査の公平性・中立性の確保に努め、事実関係を明確にする。
- 2 学校で行う調査の状況については、必要に応じていじめを受けた児童及びその保護者に対して適切に情報を提供する。
- 3 調査結果を綾部市教育委員会に報告する。
- 4 調査結果を踏まえ、当該重大事態と同種の事態の発生の防止のために必要な取組を進める。

第6 関係機関との連携

- 1 地域・家庭との連携の推進
 - (1) 綾部市立志賀小学校PTAとの連携のもと、研修会を実施する等のいじめに対する理解を深める取組を推進する。
 - (2) いじめの防止等に関する学校基本方針や取組をホームページ等で積極的に発信する。
- 2 関係機関との連携の推進
警察、児童相談所等の関係機関と適切な連携を図るように努める。